
冬の怖い出来事

竜蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬の怖い出来事

【Nコード】

N7518A

【作者名】

竜蒼

【あらすじ】

これは昔、私が体験したとても恐ろしい出来事です。

これは私がある冬の日に体験したみのけもよだつ出来事です。

当時18歳だった私は新聞奨学生をしながら専門学校に通っていました。

新聞奨学生とは新聞配達をすることによって、学校に通うための援助をうけることが出来る制度のことです。

私は毎日、決まった区域の新聞を自転車を使って配っていました。夏も冬も汗を流しながら頑張って。

しかしその区域に怪しげな不陰気のマンションが1件あったのです。そこは人が住んでいる気配が全くない所でした。

私はそのマンションに一部だけ新聞を配達していましたが、いつも誰もいないのになにかの視線の様なものを感じていました。

そんなある日、私は学校の授業で少し帰るのが遅くなり一時間程配達するのが遅くなっていました。

その日も普段通りに配達を続け、あの例のマンションに到着しました。その季節、冬だったので時間はまだ五時頃でしたが夏に比べ外は真っ暗でした。マンションの電気は一切ついていません。そんな中、いつものようにマンションに入り階段を上ります。階段を上るたびに嫌な気配は強くなっていました。そしていつもの階に到着し新聞を配達します。

その時まではなにも起こりませんでした。

そして上ってきた階段を今度は下ります。その時階段の途中で、なにかの視線を感じ立ち止まりました。誰もいないはずなのに……。ふと、そう思いましたが気のせいだと考え、再び階段を下ろうとしました。その時です。

「ねええ、一緒に死なない？」

上の方から声が響きました。

はっと背筋に震えが走り上を見あげるとそこには首だけが天井からぶら下がっていました。女の首が。私はこれはヤバイと思い一目散に逃げ出しました。背後から首がずっと追い掛けてくる気配がしてその間一度も後ろを振り返る事はできませんでした。そして自転車です。でやっとの思いで配達所まで逃げ帰ると、そこで何があったのか配達所の人に説明し、その日だけは残りの新聞を他の人に配達してもらいました。翌日、配達所の所員さんにその例のマンションの一室に行つて異常がないか確認してもらいました。そうしたら、新聞を配達していたマンションの一室でその住人が一人首つり自殺をしていたそうです。私が配達に行つた時にはもう死んでいたのか、いなかったのか。

私はその後、配達をしばらく続けましたがあの時の様なことは起こりませんでした。ですが毎晩うなされ、学校の授業に全く身が入らなくなっていました。それが原因で私は新聞奨学生を辞め、普通の会社に就職することに決めました。

私の配達していた地域では自殺する人が多いそうです。それは、人生に絶望したのか、自分の将来に希望を見い出せなかったのか。自殺した女性の部屋からは遺書等は一切発見されなかったそうです。なぜ自殺をしてしまったのか。結局分からずじまいだそうです。

（後書き）

ご覧いただき誠にありがとうございました。これはフィクションですが、一人でもこの話を想像して怖いと思って頂けたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7518a/>

冬の怖い出来事

2010年11月20日15時21分発行